

特別対談

～ハンドルの重みは命の重み～

悲しい思い 繰り返さぬために



(公財)交通遺児育英会
石橋 健一 会長

いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大卒業後、日新製鋼(現日本製鉄)を経て96年、交通遺児育英会。事務局長、専務理事、理事長を歴任。2023年6月から現職。



中日ドラゴンズ
柳 裕也 投手

やなぎ・ゆうや 1994年、宮崎県生まれ。横浜高、明治大を経て2016年ドラフト1位で中日ドラゴンズ入団。選手会長を務めた。24年度の愛知県警交通安全大使。

プロ野球・中日ドラゴンズの柳裕也投手(30)。小学生の時に父を交通事故で失い、交通遺児育英会の奨学生として修学支援を受け、「プロ野球の選手になる」夢を実現した。入団後は最優秀防御率、最多奪三振のタイトルを獲得するなど主力選手に成長。チームの選手会長も務めた。その傍ら、今年度は愛知県警が委嘱する交通安全大使に就任。さらに、野球を通じて同じ境遇にある子どもたちを励まそうと、2022年からホームゲームに交通遺児家庭を招待する「柳裕也招待プロジェクト」に取り組んでいる。交通遺児支援活動をはじめ、深刻な社会問題となっている飲酒運転の撲滅など、交通事故の防止に向けた思いを石橋健一会長と語り合った。

大人になって実感する「支援のありがたみ」

——交通遺児育英会の成り立ちを教えてください。

石橋 高度成長期、交通事故死が増えた昭和40年代に夫を失ったお母さんたちから「わが子をせめて高校にだけは行かせたい」という声がかかります。その声は社会を動かす運動が起り、1969(昭和44)年5月2日に当会が設立されたのです。これまで5万8千人を超える交通遺児に総額585億円の支援を行ってきました。奨学金のほか、家賃補助、運転免許取得費用補助など、子どもたちの進学や自立を支えるさまざまな制度を用意しています。

柳 私は小学校6年生の時、父を交通事故で亡くし、交通遺児支援を受けていました。当時はまだ幼かったこともあり、支援のありがたみを理解できていませんでしたが、大人になった今、こうして具体的な支援内容を聞くと、自分がどれだけ支えられていたのかを実感しますね。

石橋 大人になって振り返った時に、支えの大きさに気付いてもらえるのは、私たちがとても大きな喜びです。

柳 父は野球経験者ではありませんでしたが、一緒に野球の本を見て練習したり、バットを買ってもらったりしました。自分の夢を全力で応援してくれましたね。

石橋 親御さんとの思い出が、柳選手の野球人生の原点になっているのです。柳 そうですね。父が亡くなった時、母と妹を支えなければという思いが強くなりました。家族を築かせてあげたい、その一心でプロ野球選手を目指しました。今振り返ると、父との何げない時間が、今の私を支えているのだと思います。あとは、自分がプロ野球選手になってからの初勝利が父の日だったんです。なんだか運命的なものを感じたのを覚えていますね。

——どんな内容ですか。

返還時の負担を軽減 給付型奨学金を拡充

石橋 「奨学金の貸与」「修学支援金給付」「奨学生の指導と育成」「学生寮(心塾)の運営」「交通安全の推進」の5つの事業を軸に支援を行っています。特に力を入れているのが、返還不要の給付型奨学金です。基本的に奨学金は卒業後に返還が必要ですが、経済的に苦しい家庭にとって大きな負担となるケースもありました。そこで、返還不要の給付型奨学金を拡充し、安心して学業に専念できるように配慮しています。

柳 私には父を交通事故で亡くし、交通遺児支援を受けていました。当時はまだ幼かったこともあり、支援のありがたみを理解できていませんでしたが、大人になった今、こうして具体的な支援内容を聞くと、自分がどれだけ支えられていたのかを実感しますね。

石橋 大人になって振り返った時に、支えの大きさに気付いてもらえるのは、私たちがとても大きな喜びです。

柳 父は野球経験者ではありませんでしたが、一緒に野球の本を見て練習したり、バットを買ってもらったりしました。自分の夢を全力で応援してくれましたね。

石橋 親御さんとの思い出が、柳選手の野球人生の原点になっているのです。柳 そうですね。父が亡くなった時、母と妹を支えなければという思いが強くなりました。家族を築かせてあげたい、その一心でプロ野球選手を目指しました。今振り返ると、父との何げない時間が、今の私を支えているのだと思います。あとは、自分がプロ野球選手になってからの初勝利が父の日だったんです。なんだか運命的なものを感じたのを覚えていますね。

石橋 「生命は地球より重い」その尊さを再認識して

石橋 ドライバーの安全意識向上のため、企業の研修や学校での無料出張講演会を実施しています。講演では、心塾生が子どもの立場で、保護者の方は親の立場で事故被害体験をお話しいただき、交通事故の恐ろしさを伝えるとともに、交通安全の大切さを訴える力強いメッセージを多くの方に受け取っていただきたいです。交通事故のない社会の実現に向けて、一人ひとりが「ハンドルの重みは命の重み」を心に刻み、安全運転を心がけてくださることを願っています。

柳 僕は自身、育英会に支えられてきたので、そのありがたみを誰よりも理解しているつもりです。同じような境遇の子どもたちにとって、育英会の存在は大きな希望であり、支えになっています。そんな中で、自分にできることは何かと考えた結果、交通事故被害者の親子を主催試合に招待するプロジェクトを始めました。

柳 僕は自身、育英会に支えられてきたので、そのありがたみを誰よりも理解しているつもりです。同じような境遇の子どもたちにとって、育英会の存在は大きな希望であり、支えになっています。そんな中で、自分にできることは何かと考えた結果、交通事故被害者の親子を主催試合に招待するプロジェクトを始めました。

柳 僕は自身、育英会に支えられてきたので、そのありがたみを誰よりも理解しているつもりです。同じような境遇の子どもたちにとって、育英会の存在は大きな希望であり、支えになっています。そんな中で、自分にできることは何かと考えた結果、交通事故被害者の親子を主催試合に招待するプロジェクトを始めました。

柳 僕は自身、育英会に支えられてきたので、そのありがたみを誰よりも理解しているつもりです。同じような境遇の子どもたちにとって、育英会の存在は大きな希望であり、支えになっています。そんな中で、自分にできることは何かと考えた結果、交通事故被害者の親子を主催試合に招待するプロジェクトを始めました。

支援とともに交通安全の大切さを伝えたい